

校内研究計画

1 研究主題

夢とところざしをもち、思いやりの心を育てる道德教育の推進
～児童の心に響き、思いや考えを伝え合う指導方法の工夫を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

学習指導要領では、生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実に努めなければならない。」と述べている。

次代を担う子ども自らが未来の夢や目標を抱き、自らを律しつつ、自己責任を果たし、自分の利益だけでなく社会や公共のために何をなし得るかを考える豊かな心を育むことが重要である。その点からも、今日道德教育の充実は不可欠なものである。また、道德の教科化を見据え、学校教育の中核に道德教育を置き実践にあたりたいと考え、本主題を設定した。

(2) 学校教育目標の具現化として

本校の学校教育目標は「明るく助け合う子ども」「かしこく工夫する子ども」「たくましく根気強い子ども」であり、よりよく、正しく生きる力の育成を目指している。

小学校における道德教育は、人間としてよりよく生きるために必要な道徳的価値や行動の仕方を様々な体験や学習を通して学び、一人一人の基礎的な道徳性を確立していくものである。そこから日々の生活や自己の生き方に結び付けて考えを深めようとする児童の姿を具現化していくことで、学校教育目標の達成が図られると考えた。

(3) 児童の実態から

本校は、全校28名の小規模・複式の学校である。児童は明るく素直であり、与えられた課題や仕事は最後までやり通すことができる。しかし、少人数学級であるため、友達同士の学び合いが深まらず、多様な考えに触れる機会が少ない。

児童の日常生活では、相手の悪口を言ったり、我慢することができなかつたりなど、自制心や規範意識の希薄化や生活習慣の確立が不十分であることなどが挙げられる。

そこで、道德教育の充実に図ることで、児童が他者・社会・自然・環境とのかかわりの中で生きるという実感や達成感を深め、「自律的に道徳的实践のできる児童」を育てていきたいと考える。

3 研究の目標

夢とところざしをもち、思いやりの心を育てるため、思いや考えを伝え合う指導のあり方について授業実践を通して明らかにする。

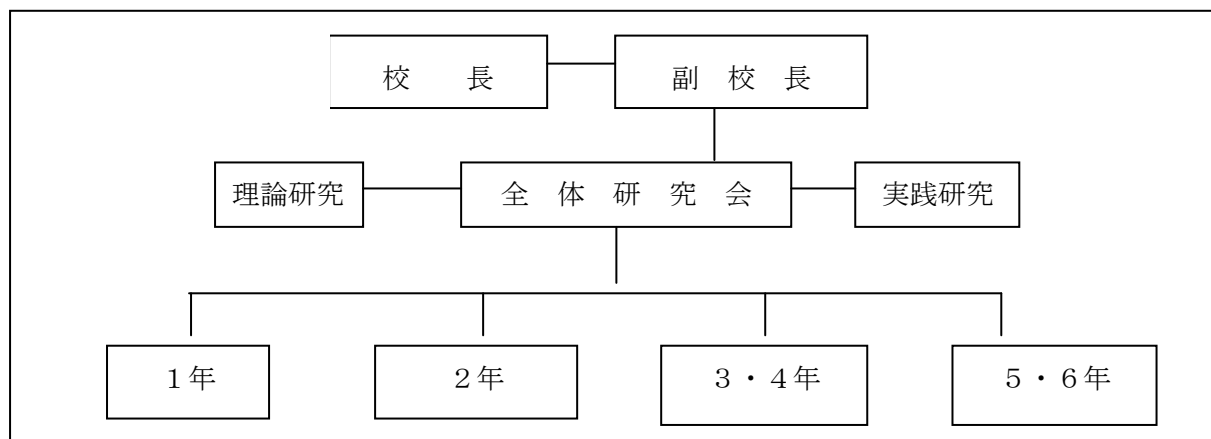
4 研究の仮説

仮説1	道德の時間の授業を充実していくことで、「夢とところざしをもち、思いやりの心がある児童の育成」が図られるであろう。
仮説2	教科や他の教育活動との関連、道徳的な環境整備を図ることにより、児童は自己の生き方を見つめ直すと共に人と関わることの大切さに気付き、「夢とところざし・思いやり」のある生き方をしようとする意欲をもち、実践力を高めることができるであろう。
仮説3	家庭や地域社会との連携を深めることにより、児童は多くの人に支えられていることに気付き、自他を大切にしながら、「夢とところざし・思いやり」のある生き方をしようとする意欲をもてるようになるであろう。

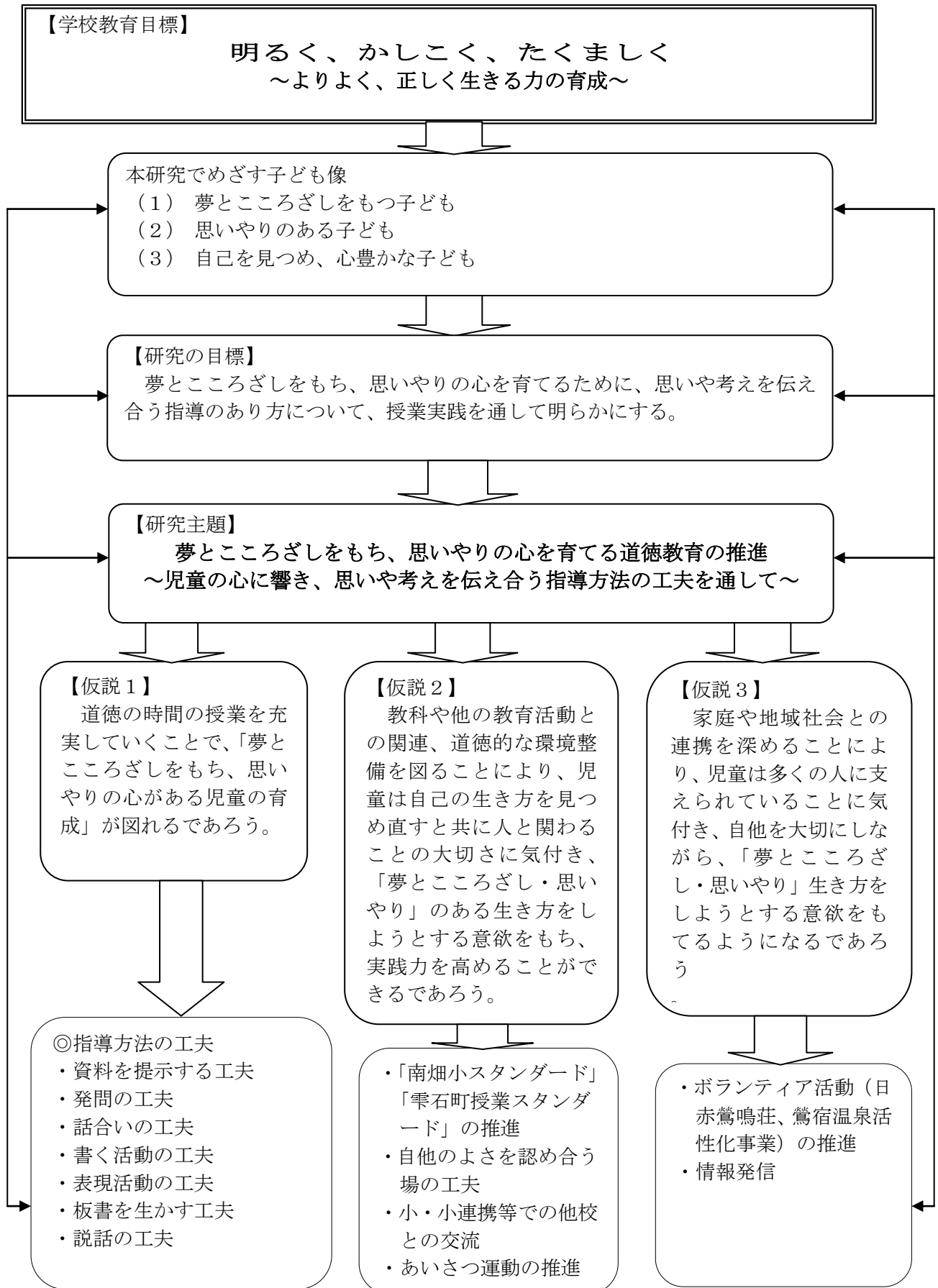
5 研究内容

- (1) 学習指導案の形式の作成と検討
- (2) 各学年による学習指導案の検討
- (3) 指導法の工夫
- (4) 岩手県版小学校道徳資料集「自分の生き方を見つめて～郷土の先人の生き方に学ぶ～」の活用
- (5) 道徳環境の整備

6 研究組織



7 研究の全体構想図



8 研究日程

回	月 日	校内研究会（研究内容）	講師派遣
1	4月 3日	○学力向上推進計画	
2	4月17日	○平成26年度研究計画	
3	5月12日	○理論研究（SL講座）	（SL）
4	5月29日	○理論研究	
5	6月 5日	○事前研①②（3・4年、2年）	
6	6月30日	○授業研①（3・4年）	
7	7月10日	○授業研②（2年）	○
8	9月 4日	○特別支援研修会	（SL）
9	9月25日	○事前研③④（1年、5・6年）	
10	10月30日	○授業研③（1年）	
11	12月 4日	○授業研④（5・6年）	○
12	1月22日	○研究部反省 来年度の構想 CRT分析	
13	2月26日	○平成27年度研究計画	